

# ポエムをストーリーで投稿する人の性格特性と、ポエムを投稿したことによって得られる満足感との関連についての検討



キーワード：Instagram, ストーリー, ネガティブ, ポジティブ, 性格特性

## 【問題と目的】

近年、スマートフォンの普及により、SNS の利用人口が増えている。(総務省, 2018)

SNS 利用者は、自己開示の側面と友人との交流的側面とを使い分けられていると考えられる。更にその使い分けに、書き手の自己意識が関係することから、その他の個人特性も関係するのではないかと考えた。

また、自尊感情、自己愛、自己嫌悪感の強さといった性格特性が、友人との接し方や自分自身についての表現に影響を与えていると考えられる。

本研究では、SNS 上の自己開示において、特に Instagram での自己開示に焦点をあて、Instagram 内のストーリーで数行にわたって文章化したネガティブ感情の自己開示をポエムと定義し、ポエムをストーリーで投稿する人の性格特性と、ポエムを投稿したことによって得られる満足感との関連についての検討を目的とした。

## 【方法】

### 対象者

立正大学の学生の 98 名。(男性 38 名, 女性 60 名, 平均年齢は 20.41 歳,  $SD=0.62$  歳) 全回答者 98 名のうち、「Instagram を使用していない」と回答した 34 名は、分析の対象外とした。次に、明らかな虚偽

回答を含むと判断された回答者や、回答項目を 1 つでも回答していない回答者を省き、有効回答数は 64 名であった (男性 16 名, 女性 48 名, 平均年齢 20.32 歳)。

### 手続き

個別自記入形式の質問紙調査で実施された。回答者はいずれも無記名で行われた。実施時間は約 10 分であった。調査内容は、フェイスシート、Instagram の利用に関する質問、Instagram のストーリーに関する質問、主な内容は (a) Instagram, ストーリーの利用の有無, (b) ストーリーの投稿, 閲覧頻度, (c) ストーリー機能に対する評価, 結果としてストーリー全体に対する満足度 (4 件法), (d) ストーリー投稿に対する心情の種類 (4 件法), (e) ストーリー投稿に対するフィードバック (4 件法)。そして個人の性格特性に関する心理変数に分かれる。

## 【結果】

Instagram 利用者のストーリー投稿における種類と頻度を検討するため、記述統計を行った。その結果、Instagram 利用者の大半がポジティブな投稿をする頻度が高く、対してポエム投稿はほとんどされていないことがわかった。また他者を想定した公開日記型の投稿が最も多かった。

また、Instagram のストーリーでのポエム投稿とポエム投稿により得られることを規定する要因を検討

## 【考察】

ストーリーの投稿頻度が高い人は、日記型投稿と公開日記型投稿、ポジティブ投稿とネガティブ投稿の内容を問わず多く投稿しているため、普段はポジティブな投稿を多くしているなかでポエムを投稿してしまった際にポエマーと認識されてしまうといえる。つまり、ネガティブな投稿だけを常にしているようなポエマーは存在しないといえる。

ポジティブな投稿は、公開日記型でも日記型でも書くことで満足感を得られるが、一方で、公開日記型ポエム投稿をした場合は満足感を得ることができないことも明らかにされた。また、他者から見られる自分を強く意識している人は内容を問わずにストーリーを投稿し、その中で自分が幸せだと主観的に感じている割合が高い人は人のせいにしやすく、内容を問わず公開日記型のストーリーを投稿していることも明らかにされた。一方で、他者に頼りやすい人は日記型投稿も公開日記型投稿もストーリーに投稿していることがわかった。特に、周りの目を気にして他者に頼りたいと思っている人はポエム投稿をし、また、ポジティブな内容のストーリー投稿を自他ともに向けて多く投稿しているということが明らかにされた。

そして内容を問わず、日記型投稿はストレス発散、公開日記型投稿はフィードバック、満足を得ることができるということがわかった。しかし中でも他者に向けたポエムでは満足感を得ることはできないということが明らかにされた。

## 【引用文献】

総務省(2018) 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査 主なソーシャルメディアの利用率(経年) 情報通信政策研究所

討するため、重回帰分析(変数増加法)の繰り返しによるパス解析を行った(図 1, 2)。第 1 水準は、自尊感情の度合いを示す 1 変数であり、第 2 水準は Instagram の利用頻度、自分を意識する度合いを示す 5 変数、第 3 水準は共感を求める感情の度合い、現在満足度を示す 2 変数、第 4 水準はストーリー機能への満足度、外敵帰属傾向度合いを示す 2 変数、第 5 水準はストーリーを誰に向けて投稿するかを示す 2 変数、第 6 水準はストーリーの投稿によって投稿者が得られた満足感を示す 4 変数とした。また、ポエム投稿(図 1)と通常のポジティブ投稿(図 2)別の諸要因を明らかにするために、第 5 水準をポエムのみに絞った変数とポジティブ投稿のみに絞った変数の 2 つの場合に分けて解析を行った。その結果、ストーリー投稿頻度の高さは全てのストーリー投稿を直接促進し、ストレス発散は日記型ポエム投稿が促進し、自己表現満足、被理解満足、他社からのフィードバック満足は公開日記型投稿が促進していた。外的帰属傾向は主観的幸福感を媒介し、公開日記型投稿を直接促進し、対人依存欲求の高さは日記型投稿、公開日記型投稿を直接促進していた。

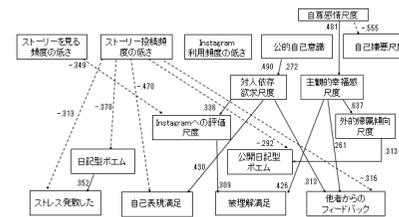


図 1 ポエム投稿と投稿により得られるものの諸要因の検討

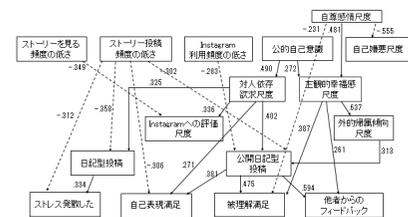


図 2 ポジティブ投稿と投稿により得られるものの諸要因の検討